

令和8年7月17日現在

「文学のまち大津」 ブランディング戦略（骨子案）について

文化振興課

◆なぜ今、「文学のまち大津」なのか

大津市は、『万葉集』から『源氏物語』、百人一首、松尾芭蕉、そして現代作家へと続く、1300年以上の文学の蓄積を有するまちである。紫式部や蝉丸、松尾芭蕉など多くの文学者とゆかりを持ち、現在も今村翔吾氏や宮島未奈氏をはじめとする作家が活躍している。

また、大津は古くから街道や水運によって人・物・情報が行き交う交通の要衝として発展し、多様な文化を受け入れながら独自の文化を育んできた。琵琶湖の風景や石山寺、延暦寺、三井寺などの歴史文化資源は、多くの物語や作品を生み出す源泉となっている。

本市では、この豊かな歴史・風土を「縦糸」、市民一人ひとりの読書や創作などの「ことばの営み」を「横糸」と捉える。両者が織り重なることで、人と人、地域と地域、過去と未来を結ぶ大津らしい文化が育まれる。

しかし、その豊かな文学資源や市民活動は十分に共有・発信されているとは言えない。今こそ、大津に息づく「ことばの営み」を見つめ直し、市民の誇りとして次世代へつないでいく取組が求められている

(1) 豊富な文学資源を有している

- 『源氏物語』、百人一首、俳句など1300年以上にわたる文学の蓄積がある
- 石山寺、近江神宮、義仲寺、幻住庵など多くの文学ゆかりの地が存在する
- 市民アンケートでは石山寺、近江神宮、紫式部の認知度は90%を超えている

(2) 市民活動や文化活動の土壌がある

- 俳句、短歌、朗読、読み聞かせなど多様な団体が活動している
- 市民文芸誌「湖都の文学」や短歌・俳句大会など発表の場も存在する

(3) 文学を活かしたまちづくりへの期待

- 「文学や本と食・カフェのコラボ」など体験型イベントへの関心は高い
- 市民は文学を地域の魅力として活用することに期待している

課題 1 文学資源の認知・活用

大津には豊富な文学資源が存在するものの、市内各地に点在しており、市民や来訪者に「大津の文学」として一体的に認識・活用されているとは言えない。また、文学資源に触れる機会や情報も十分とは言えず、その魅力が十分に生かされていない。

課題 2 担い手の育成

俳句、短歌などの文学活動を支える団体では高齢化や担い手不足が進んでいる。また、子どもや若者が文学に触れ、学び、創作や発表につながる機会が十分とは言えず、次世代への継承が課題となっている。

課題 3 多様な主体との共創と魅力発信

多様な文学活動が行われているものの、市民、文学団体、大学、企業など多様な主体が連携・共創する仕組みや、市内外への情報発信が十分とは言えない。

目指す姿

市民が大津の文学資源に誇りを持ち、
生涯にわたって文学に親しめるまち大津

基本方針

- 基本方針 1 「触れる」「知る」
文学資源を再発見し、まちの魅力として活かす
- 基本方針 2 「学ぶ」「深める」
文学に親しみ、表現する人を育てる
- 基本方針 3 「つながる」「広がる」
多様な主体と連携し、「文学のまち大津」の魅力を広げる

基本方針① 「触れる」「知る」 文学資源を再発見し、まちの魅力として活かす

大津ゆかりの文学資源を体系的に調査・整理し、市民や来訪者が文学に触れ、学び、体験できる環境を整えることで、文学資源の価値を再発見し、「文学のまち大津」の魅力として発信・活用を図ります。

施策① 文学資源の調査・整理・可視化

推進する取組例

- ・ 文学資源の調査・整理
- ・ 文学資源のデータベース化
- ・ 文学資源マップの整備
- ・ 文学に関する冊子等の作成
- ・ 文学情報の発信

施策② 文学資源を体験する機会の創出

推進する取組例

- ・ 文学散策・まち歩きの実施
- ・ フィールドワークの実施
- ・ 文学講座の開催
- ・ 文学イベントの開催

基本方針② 「学ぶ」「深める」

文学に親しみ、表現する人を育てる

子どもから大人まで、文学に親しみ、学び、創作や発表を行う機会を充実させるとともに、文学活動を支える人材や次世代の担い手を育成し、「文学のまち大津」を将来にわたって支える人づくりを推進します。

施策①

子ども・若者が文学に親しむ機会の充実

推進する取組例

- ・子どもの読書活動の推進
- ・学校・図書館との連携
- ・文学講座やフィールドワーク等による文学体験の充実
- ・作家等との交流機会の創出
- ・創作・発表機会の充実

施策②

創作活動・人材育成の推進

推進する取組例

- ・文学創作活動の支援
- ・創作講座・ワークショップの開催
- ・作家・編集者等との交流機会の創出
- ・文学作品の発表機会の創出
- ・大学等との連携

基本方針③ 「つながる」「広がる」 多様な主体と連携し、「文学のまち大津」の魅力を広げる

市民、文学団体、大学、企業、出版社、書店など、多様な主体との連携・共創を推進するとともに、それぞれの強みを生かした取組を展開することで、「文学のまち大津」の魅力を市内外へ発信し、持続的に発展する仕組みづくりを進めます。

施策① 多様な主体との連携・共創の推進

推進する取組例

- ・ プレーヤーの発掘・育成
- ・ 実行委員会による事業推進
- ・ 市民・大学・企業等との連携
- ・ 新たなプレーヤーの参画促進

施策② 戦略的な情報発信とブランド力向上

推進する取組例

- ・ ホームページ・SNS等による情報発信
- ・ 国内外への魅力発信
- ・ ユネスコ創造都市ネットワーク加盟に向けた取組
- ・ シティプロモーションとの連携
- ・ 文学を活用したブランド形成

【これまでの取組】

(1) プレーヤーの発掘

令和7年度から文学団体・学校などとのヒアリング・意見交換を実施。

(2) ネットワーク形成

- ・「文学のまち大津」実行委員会の設立
- ・プレイヤー発掘説明会の開催
- ・プロジェクトパートナー募集
- ・分野を超えた交流の促進



【今後期待される展開】

プレイヤーの発掘とネットワーク形成により、多様な主体がそれぞれの強みを生かして共創に向けた基盤が整いつつある。

今後は、行政だけでなく、市民や民間事業者が主体となった新たな取組が生まれ、「文学のまち大津」の持続的な推進につながる事が期待される。

第1段階

基盤形成

(R8～9年度を想定)

重点 基本方針①

触れる・知る

【市民】

- ・文学・郷土への理解
- ・文学への関心の醸成

【地域プレイヤー】

- ・関連事業への参画
- ・人材の発掘・創出

【大津市】

- ・基盤整備・プレイヤー発掘

第2段階

共創・展開

(R10～11年度を想定)

重点 基本方針②

学ぶ・深める

【市民】

- ・文学活動への参加・交流
- ・地域に対する愛着深化

【地域プレイヤー】

- ・共同プロジェクトの創出・拡充

【大津市】

- ・共創の推進
- ・民間主体への支援

第3段階

定着・発展

(R12～13年度を想定)

重点 基本方針③

つながる・広がる

【市民】

- ・文学活動の主体・魅力発信
- ・地域に対する愛着拡大

【地域プレイヤー】

- ・自主的なプロジェクトの展開
- ・新たな価値創出

【大津市】

- ・ブランド戦略
- ・国内外への発信

推進体制（令和8年度における主な関連事業）

「文学のまち大津」推進協議会



「文学のまち大津」ブランディング戦略

大津市・教育委員会

行政主体による取組の展開

- ・「大津の文学」発刊
- ・小中学生向けの副読本の作成
- ・学校夢づくりプロジェクト
- ・UCCN加盟に向けたフォーラム
ほか

連携

「文学のまち大津」実行委員会 (官民連携組織)

市民・事業者・行政などで組織し、委員主体による取組の展開

大津市・教育委員会

- ・湖都の葉マルシェ
- ・文学のまち大津PRブース
- ・「文学のまち大津」ホームページやSNSでの情報発信
ほか 今後、戦略の基本方針に基づく取組を実行委員会において協議

連携

連携

新たなプロジェクト立ち上げ

参画

地域プレーヤー

市民・事業者主体による取組の展開

文学団体・学校・出版社・書店・企業・市民活動団体・作家 など

- ・青春21文字メッセージ
- ・初心者俳句教室
- ・かるた入門講座
- ・商業施設による「かるたイベント」
- ・読み聞かせ活動
- ・地域団体によるまち歩き活動
- ・本の交換会ほか

※現在、実施している事業や関係各課の取組を基盤とし、多様な主体との連携・共創により、新たなプロジェクトを創出しながら、「文学のまち大津」の実現を目指す。